

## URPとの緊密な連携によるホームレス支援全国ネットワーク研修の開催

## Coalition Between URP and National Homeless Support Network

2009年10月9日(金)・10日(土)に、ホームレス支援にかかわる実践者・研究者が全国から集まり、都市研究プラザと厚労省の後援により、各地の事例やさまざまな研究成果から学び合う研修会を、千葉県市川市で開いた。日本で唯一の全国の民間のホームレス支援団体のネットワークであり、社会全体のホームレス支援のあるべき姿を模索する取り組みである。

このネットワークや研修の紹介にあたって、都市研究プラザとの関係の系譜について記しておきたい。2005年4月より1年後の本格開設をめざして都市研究プラザの開設準備委員会がスタートし、その委員メンバーとして第3ユニット長の水内俊雄が参画していた。都市研究プラザの起動エンジンとしてソーシャルサーベいの連鎖を企画し、具体的な調査主体として、大阪就労福祉居住問題調査研究会を、水内を代表として立ち上げた。大阪市立大学のみならず大阪府立大学や近隣大学に所属する研究者や、民間プロフェッショナル、NPOなどの人などと、運営組織を結成した。

最初の調査は、大阪市健康福祉局の委託調査「西成区の生活保護受給者の現状」(2005年度実施)であり、続いて全国規模の「もうひとつの全国ホームレス調査」(2006年度実施)、これは人権運動ネットワークの虹の連合の委託調査であった(他にも新宮市などで数調査も受託して、調査書を刊行している)。同時に都市問題研究の助成プロジェクトで、「大阪市西成区の救護施設今池平和寮の取り組み」(2007年度実施)を実施した。特にもうひとつの全国ホームレス調査では、旭川から那覇まで、65団体、800名近い当事者への聞き取りを行った経験が、全国支援組織のネットワーク結成にスムーズにつながったといえる。

2007年4月に任意団体として、ホームレス支援全国ネットワークが大阪で設立され、2008年2月に第1回全国研修を都市研究プラザの主催で東京で(GCOE Report Series1)、そして2008年5月には第2回全国研修を西成プラザで行った(GCOE Report Series2)。今回の研修は、NPO法人化するのを契機に、第3回目の全国研修として開かれた。

研修は2日間にわたり、会場となった千葉県市川市で活動するNPO法人ホームレス自立支援ガンバの会をはじめ、大阪で活動するNPO法人釜ヶ崎支援機構や、東京のNPO法人自立支援センターふるさとの会、NPO法人北九州ホームレス支援機構などから報告があった。「諸団体のもつ多様性こそホームレス支援活動全体にとって豊かさそのものである」とのホームレス支援全国ネットワーク理事長奥田知志氏(NPO法人北九州ホームレス支援機構)の言葉通り、それぞれが地域と向き合いながら形にした活動の広がりが垣間見られ、地域の実践に関わりつつ、そこから

見えてくる問題の構造や支援の可能性なども報告された。

ホームレス支援全国ネットワークの理事には水内も加わり、都市研究プラザの研究者が多く関わる釜ヶ崎のまち再生フォーラム等も会員として参画している。実践者・研究者をはじめ、様々な関心からのアプローチを橋渡しし、ホームレス支援における大小さまざまな取り組みの歯車をかみ合わせていくことが、都市研究プラザの役割でもある。民間団体による個々のホームレス支援が、「公」を含めた社会全体への枠組みとして動き出していくために、このネットワークの取り組みや実践は大いに期待され、都市研究プラザの貢献が大いに期待されている。その実践の媒体として、雑誌「ホームレスと社会」(明石書店)が昨秋、創刊された。

■平川隆啓 (G-COE特別研究員)、  
水内俊雄 (都市研究プラザ教授)



元厚生省社会・援護局長 炭谷茂氏のプレゼンテーション

On October 9 and 10, 2009, practitioners and researchers involved in assistance for the homeless gathered from all over the country in Ichikawa City, Chiba Prefecture and held a study session where case examples from various locations and research findings were reported on. National Homeless Support Network, the only nation-wide private network for aiding the homeless in Japan, marking the occasion of becoming a legally-recognized NPO, participated in this event, with the support of the Urban Research Plaza and the Ministry of Health and Labor.

Acting through private assistance groups, the network moves forward through practical work, serving as a mediator for assistance related to the homeless being dealt with in many different locations, formulating means for mutual cooperation, and making policy proposals to the Ministry of Health and Labor and other official bodies. The Urban Research Plaza also supported this project in all respects, and the construction of a homeless assistance system was discussed from both practical and research perspectives by the participants, beginning with the practitioners from various locales, and including researchers from the Urban Research Plaza and other bodies.